

■特選

◆小学校低学年の部

◇いそがしく切りかわるノロノロとクルクル 池田市立北豊島小2年・松本一花さん

わたしの弟はまだ時計が読めない。お出かけの時も「あとどれくらいでつくの。」とかならず聞く。でも、「あと五分だよ」と言ってもつたわらない。だから、わたしはいろいろ考えて、「すきなテレビ番組の半分くらいだよ。」とか「百まで三回数えたらつくよ。」と教えてあげる。それでも弟は「そんなのまてない。」と言ってなく。わたしは学校で習ったから時計も読めるし、五分がどれくらいの長さかも分かる。でも、この五分の長さを弟がなかなかいようにつたえるのはとてもむずかしい。

この本を読んで、同じ五分でも長い五分とみじかい五分があることが分かった。わたしもむずかしいじゅぎょうはなかなかおわらないのに、楽しいじゅぎょうはすぐおわりのチャイムがなるし、ピアノでなが手なきょくのれん習はとても長いのに、ノリノリのダンスのレッスンはすぐおわるとかんじていたので、読みながら「そうそう。分かる。」と思わずうなずいてしまった。

同じ五分なのにどうしてこんなにちがうのだろう。時計のはりはいつも同じスピードでうごくのに、心の時計のはりはその時の気もちでまったくちがううごきをする。楽しい時やワクワクしている時、しゅう中している時はクルクルすごいはやさでうごく。反対にまちどおしくてがまんしている時やたいくつな時、むずかしいべん強の時はノロノロゆっくりうごく。ノロノロうごいている時も楽しくなるように、目ひょうをきめたり、ワクワクした気もちにかえたりすると、心の時計はクルクルスピードにかわる。

心の時計のノロノロとクルクルはいつもいそがしく切りかわる。わたしはクルクルスピードの時間をふやすため、たいくつな時やむずかしいことをする時も目ひょうをもって楽しい時間にかえていきたい。そして、弟にも長い五分をいっしょにあそんだり、うたったりして、ワクワク楽しいみじかい五分にしてあげたい。

(「ながーい5ふん みじかい5ふん」リズ・ガートン・スキャンロン、オードリー・ヴァーニック 訳者・木坂涼/光村教育図書)